

# U.S. Indicators

発表日: 2022年2月24日(木)

## 米国 2月に企業活動が再加速(22年2月PMI)

～産出価格は上昇しインフレ圧力の強まりを示す～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

22年2月のIHSマークイット米国総合購買担当者指数(PMI)の速報値は、56.0(51.1)と前月比4.9%p上昇した(拡大縮小の分岐点50)。製造業が57.5と前月比2.5%p上昇したほか、サービス業が56.7と前月比5.5%p上昇し、全体を押し上げた。オミクロン変異株による感染拡大のピークアウトやワクチン接種の進展を受けた規制緩和等を背景にサービス業主導で再加速した。新規受注、生産などが高い水準を維持しており、供給制約の強いもと企業活動が活発さを維持している。また、労働力不足が懸念される中、2月の雇用指数が大幅に上昇しており、2月民間雇用者の増加ペース加速を示唆している。

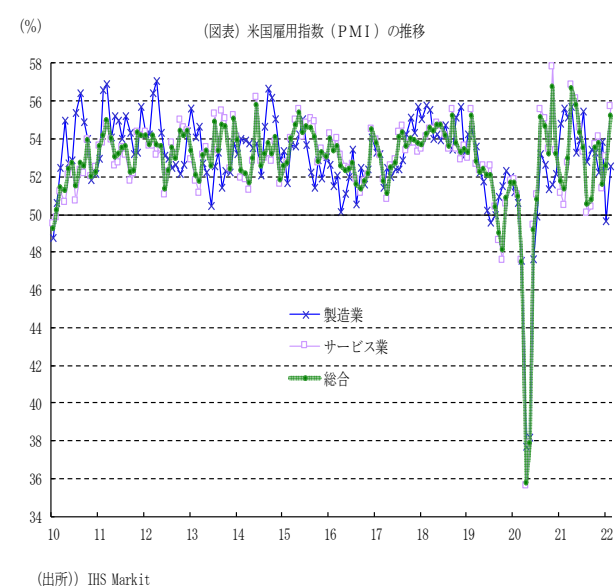
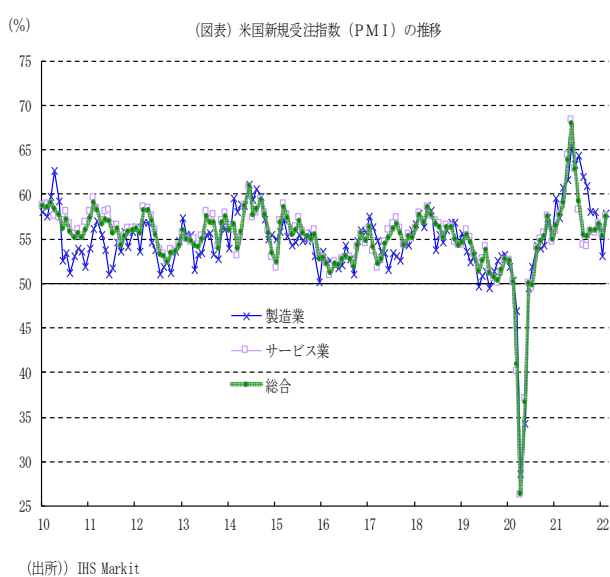
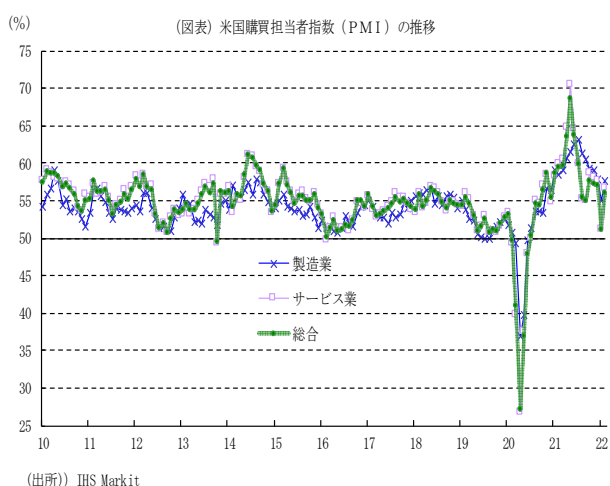
PMIの基調としては昨年の高い水準から低下傾向にあり、労働力不足、サプライチェーンの問題等によって、米経済成長が高い水準から緩やかに鈍化していることを示している。

インフレに関して、産出価格指数では製造業が高い水準にとどまっているほか、サービス業が過去最高を更新しており、インフレ圧力が強まっていることを示している。ただし、投入価格指数では製造業が低下を続けているほか、サービス業の上昇に歯止めがかかっており、先行きのインフレ圧力の一段の強まりは回避されることが示唆されている。

製造業PMIの構成項目をみると、新規受注が57.8(前月53.0)、雇用が52.5(前月49.6)、生産が52.5(前月50.3)、在庫が53.4(前月50.6)と上昇した。寄与度では、入荷遅延が前月比▲0.32%pの押し下げ寄与となった一方、新規受注が前月比+1.45%p、雇用が前月比+0.58%p、生産が前月比+0.55%p、在庫が前月比+0.28%pの押し上げ寄与となった。また、構成項目以外では輸出受注が54.2(前月50.4)と大幅に上昇しており、米輸出の加速を示している。

サービス業では、活動指数が56.7(前月50.9)と高い水準に回復したほか、新規受注が57.5(前月55.4)、雇用が55.7(前月52.7)と上昇し、高い水準を維持した。また、見通しを示す「将来の活動指数」が77.6(前月73.6)と高水準を維持しており、企業の先行きに対する楽観的な見方は強いままである。

四半期では、1、2月平均で製造業が56.3と10-12月期の58.7から鈍化したうえ、サービス業が53.9と10-12月期の58.1から低下した。結果、総合指数が53.5と10-12月期の57.3から3.7%p低下しており、1-3月期の実質GDP成長の減速予想と一致した動きとなっている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。